

17-6. 認定看護師活動報告

集中ケア認定看護師 活動報告 中村 紀子

1. 院内教育活動

日付	内容	対象者
5.10	フィジカルアセスメントⅠ 呼吸	クリニカルラダーレベルⅠ
11.8	フィジカルアセスメントⅡ 統合	クリニカルラダーレベルⅡ
11.27	認定看護師ブラッシュアップセミナー RST コラボレーション NPPV マスクフィッティング 講義・実技	院内・院外 全職員
12.8	フィジカルアセスメントⅠ 統合	クリニカルラダーレベルⅠ

2. 院外活動

日付	内容	場所
6.1	第21回日本臨床救急医学会学術集会 RRS 合同委員会 参加	愛知県 名古屋国際会議場
11.12	進路学習 職業講話 講師	彦根市立稲枝中学校
11.30	明日からもれなくチェックしよう！すぐに活かせる フィジカルアセスメント 集合研修・シミュレーションファシリテーター	滋賀県 看護研修センター
3.2	第48回日本集中治療医学会学術集会 RRS 合同委員会 参加	京都府 国立国際会館・グランド プリンスホテル京都

3. 学会発表

【ポスター発表】

日付	演者名	演題	学会	会場
6.1~2	奥野千尋、 中村紀子 他	院内看護師に対する救急カート 薬剤知識調査の取り組み	第21回日本臨床救急 医学会学術集会	愛知県名古屋 国際会議場

【口演発表】

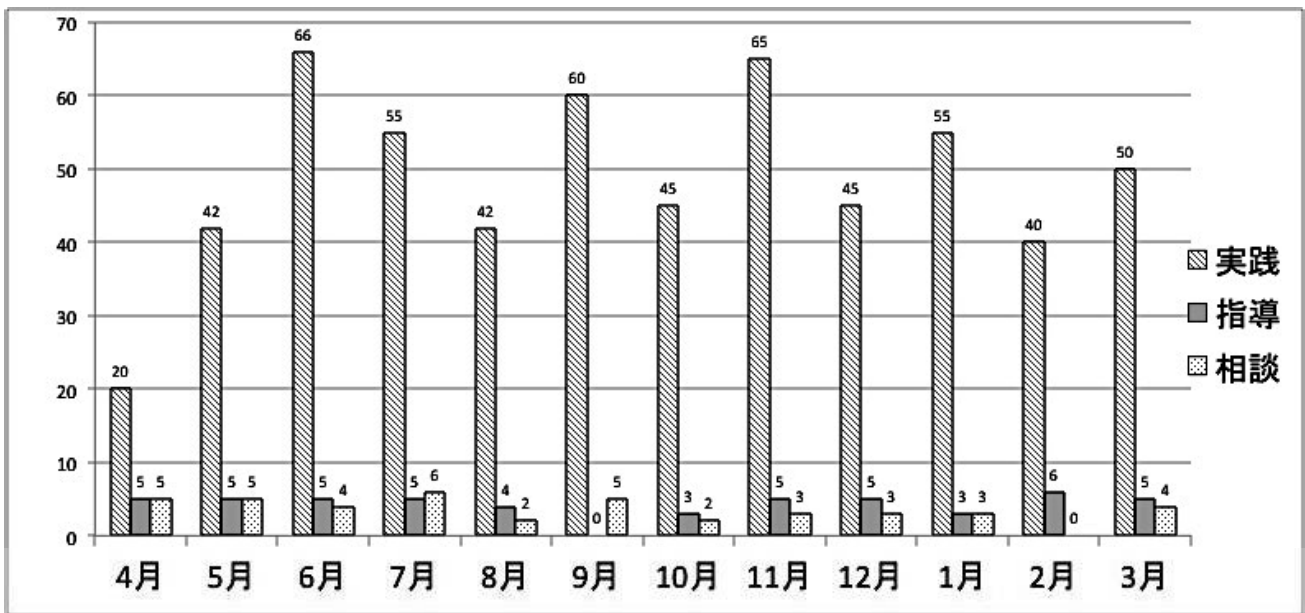
日付	演者名	演題	学会	会場
6.30	中村紀子	シンポジウム 「チーム医療の充実と安全管理 の成果 チームステップスの構築」 RRT・RST の立場から	第14回日本クリティ カルケア看護学会 学術集会	東京都 タワーホール 船堀
3.1~3	中村紀子、 池田智之、 下司徹、 藤川真人	一般病棟へ緊急入室した患者の NEWS 評価の有用性の検討	第48回日本集中治療 医学会学術集会	京都府 国立国際会館・ グランドプリ ンスホテル 京都

4. 雑誌投稿

題名	掲載雑誌・書籍名	掲載	出版社名	発行年月
もう困らない！必ずわかる In-Out ・輸液管理に必要な単位換算表 ・単位の知識についての基本的な解説	月刊ナーシング Vol. 39, No. 3, 2019.	P72-P79	学研メディカル秀潤社	2019. 2 月

5. 実践・指導・相談件数

実践：585 件 指導：51 件 相談：42 件



6. コンサルテーション（相談）の内訳：合計 42 件

内容	一般病棟	ICU
酸素療法	11	5
人工呼吸器からの離脱	2	8
体位ドレナージ	5	0
人工呼吸器装着中の離床	4	3
カフ圧管理	1	0
NPPV マスクフィッティング	2	1

7. 実践活動の詳細

ICU	実践活動	一般病棟 RRS ラウンド:活動日と RST ラウンドなどに不定期ラウンド
		教えて！ICU 発行 年間5回発行とアンケート評価
		倫理検討シートの利用推進活動、倫理カンファレンスの実践・記録
		SAT SBT プロトコル、早期離床プロトコルの推進と実践
		ICUにおける特定行為実践・データ管理
科長補佐業務	機能評価委員、スタッフ面談、ICU ラダー他者評価、データ管理	
RRS	RRS 運営部会	毎月第1月曜 16:00～17:00 会議
		毎月第3水曜 14:00～15:00 会議
	RRS リンクナース	一般病棟患者の NEWS スコアリング推奨活動、Dr コール・RRS 症例報告書作成、救急カート薬剤知識調査年間2回実施、フィードバック、救急カート整備、RST ラウンドへの同行
RST	ラウンド	毎週水曜 10:30～ラウンド
	会議	毎月第1水曜 ラウンド終了時 司会・書記・議事録の作成・配布
	勉強会	年間3回開催 (6月 NHF・10月 VAP・11月 NPPV)
	通信発行	6回発行 (RST からのお願い編・リハビリテーション科活動報告・臨床工学科活動報告・RST における管理栄養士の活動・口腔外科 RST 活動報告・RST の軌跡と成果)
	一般病棟カンファレンス	随時参加
	データ管理	RST 介入依頼・人工呼吸管理患者の把握・コンサルテーション内容のファイルサーバーデータベース登録

8. 所感

認定看護師となり5年が経過しました。日本集中治療医学会の推奨する ABCDEF バンドルに基づき、当院 ICU でも重症患者への標準的な看護を実践できるよう、またスタッフが全人的な看護の視点を養えるよう、教育的役割を担い、多くのプロトコルをスタッフとともに作成し、実践してきました。

平成30年診療報酬改定にて ICU における多職種による早期離床・リハビリテーションの取り組みに係る評価として、早期離床・リハビリテーション加算(500点/日:14日まで)が新設されました。当院 ICU では平成28年度より早期離床への取り組みは開始しており、今年度は ICU スタッフとともに、現在ある早期離床・リハビリテーションの取り組みを明確に可視化し、他職種連携の強化を図り、スムーズな加算取得へ至っています。

また、スタッフの倫理感の育成に重点を置き、自らが役割モデルとして声をかけ、積極的に倫理カンファレンスを行いました。また、人工呼吸器離脱プロトコルをより実践レベルに近づけるため、ベッドサイドにおける患者の観察の実践、人工呼吸器の設定の確認など、スタッフや医師、他職種とともに、人工呼吸管理患者への安全で安楽なケア介入を実践しました。

院内活動では、呼吸ケアサポートチーム(RST)と院内急変対応システム(RRS)の活動を中心に、院内のクリティカルケア看護に関わる教育活動に携わりました。チーム活動における多職種連携の重要性を改めて認識し、患者にとって最善の医療・看護を提供できるよう活動を継続したいと考えます。

今年度は10月の病院機能評価に向けて、ICU看護マニュアルや看護手順、病棟の環境整備、看護実践の可視化について、リーダーシップを発揮し、取り組んできました。結果はA評価となりましたが、ICU看護マニュアルや看護手順の改訂などを通じて、看護の言語化の重要性についてスタッフとともに認識できる機会となりました。

今後も内省と自己研鑽を継続し、院内のクリティカルケア看護の質の向上に寄与できるよう、自身の役割を鑑みた活動を実践していきたいと考えます。

I. 学術活動

別途 EXCEL ファイル添付の通り (病院年報 II 学術活動および院内諸活動に記載)

II. 院内諸活動

1. 褥瘡管理

- 専従の褥瘡管理者による褥瘡発生のリスクが高い患者に対する予防ケアを推進するための回診を実施。
- 既に褥瘡を有する患者に対しては、褥瘡対策チーム(専任医師・専任看護師・専従の褥瘡管理者)と褥瘡・創傷対策部会のメンバー(管理栄養士・理学療法士・薬剤師)による褥瘡回診を毎週1回実施し、局所管理方法だけでなく、排泄ケアも含めたケア方法の検討、栄養状態を始めとした全身状態の把握と調整を行っている。

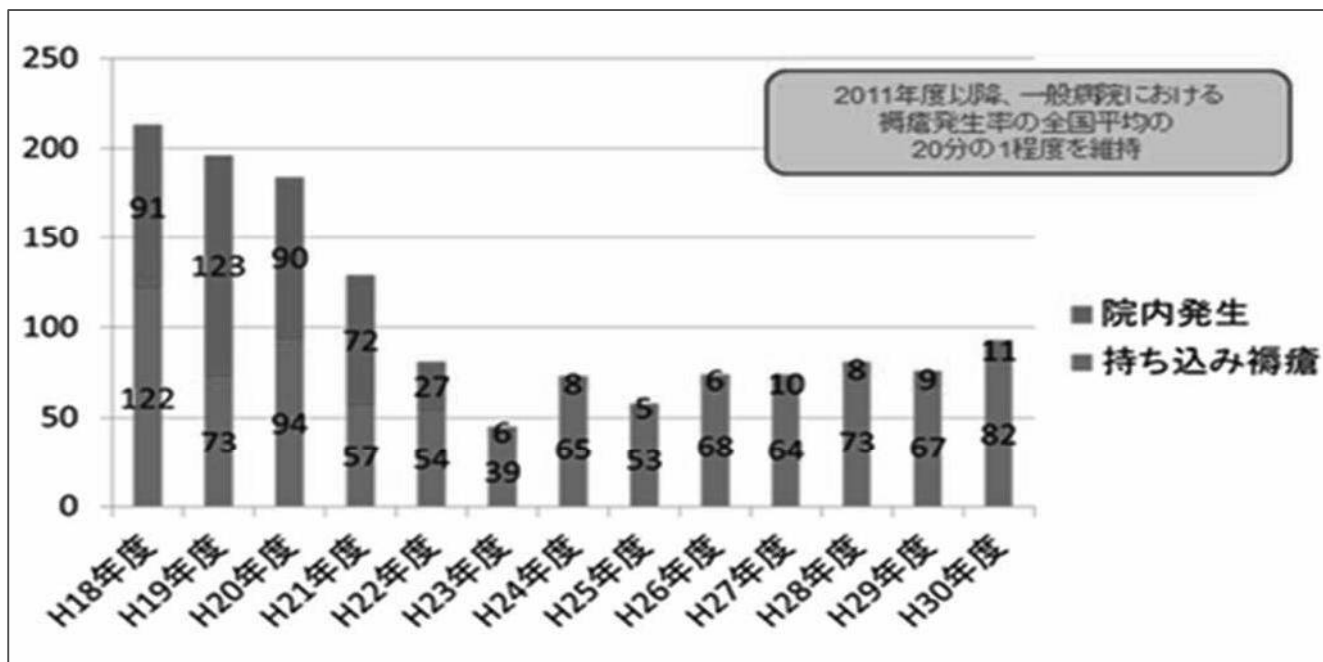


図1：持ち込み褥瘡と院内発生の推移

表1：褥瘡ハイリスクケア加算算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
算定件数	63	66	73	86	84	68	76	69	75	73	86	84	903

2. 排尿ケアチームの活動

- 毎月1回排尿ケアチームのメンバー(専任の泌尿器科医1名・専任の看護師4名・専任の作業療法士2名)によるカンファレンスを実施し、排尿自立に向けた包括的ケアプランを検討や評価を実施。

表2：排尿自立指導料算定患者数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者数	9	8	21	5	10	7	13	11	22	19	20	15	160
算定件数	19	14	31	12	14	11	19	13	30	28	29	22	242

3. スキンケアリンクナース会の運営

	主な活動内容	スキンケア通信
4月	褥瘡危険因子評価の変更についての案内 褥瘡関連評価の目的と運用の再周知	スキンケアの処置方法について
5月	院内発生褥瘡の動向と対策について 体圧分散マットレス調査の実施	当院における褥瘡発生の動向と対策について
6月	ポジショニングの基礎知識の確認 高すべり性のグローブを用いた圧抜きの方法についての演習	ポジショニングの基礎知識の確認
7月	褥瘡予防ケアの目的と効果について	褥瘡院内発生症例から予防策を検討する
8月	各種体圧分散マットレスの特徴と適応について	体圧分散マットレスの選択について
9月	失禁関連皮膚障害(IAD)の予防 オムツ装着に関連した皮膚障害の発生状況報告	漏れやスキントラブルを起こさないテープ式オムツの当て方について
10月	褥瘡発生の意見因子評価のポイント 体圧分散マットレスの選択について	褥瘡発生のリスクアセスメントについて
11月	スキンケアマニュアルの読み合わせ・見直し	当院におけるスキンケアの変遷 褥瘡発生低減のためのスキンケア
12月	スキンケアマニュアルの修正・新規作成	間歇自己導尿指導のポイント 自己導尿指導に用いるデバイスの紹介
1月	スキンケアマニュアルの修正・新規作成	頭側拳上時に発生するずれの予防について
2月	スキンケアマニュアルの発表	弾性ストッキング装着中に発生する医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)の予防について
3月	スキンケアマニュアルの発表 次年度の課題の抽出	褥瘡予防チャートの見直しについて 大容量オムツの活用について

4. 院内の看護職を対象とした教育活動

日付	研修内容	対象者
4.9	スキンケアの基礎知識	レベルI
6.6	ポジショニングと排泄ケアの基礎知識と技術演習	レベルI
10.3	認知症高齢者の排泄行動とそのケア	全レベル

緩和ケア認定看護師活動報告 森口 朋子

1. 院内活動

日付	内容	対象者
7. 3	第1回がん看護研修 「エンド・オブ・ライフケアにおける意思決定支援」 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)って？ 講師	院内・湖東地域看護職
8. 5	訪問看護学習会 「エンド・オブ・ライフケアにおける意思決定支援」講師	訪問看護ステーション ほほえみ 訪問看護師
11. 28	新人看護師研修「終末期看護」講師	新人看護師
12. 3	「緩和ケア病棟の説明」について 講師	6B病棟看護師
12. 14	訪問看護学習会 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに 関するガイドライン」 講師	訪問看護ステーション ほほえみ 訪問看護師
2. 22	訪問看護学習会「ナラティブ」 講師	訪問看護ステーション ほほえみ 訪問看護師

2. 院外活動

日付	内容	参加形態	会場
6. 2	第47回京滋緩和ケア研究会	一般参加	京都芝蘭会館
6. 14	第25回緩和医療学会教育セミナー	一般参加	神戸国際会議場
6. 15、16	第23回日本緩和医療学会	一般参加	神戸国際会議場
6. 27	聖泉大学講義 「緩和ケア」～あなたに会えて良かった と言っていたように～	講師	聖泉大学
6. 27	聖泉大学講義 「癒しにつながる代替療法」	講師	聖泉大学
8. 25、26	がん相談支援センター相談員 基礎研修(3)	がん専門相談員 参加	国立がん研究 センター
9. 2	滋賀県緩和ケア研修会	ファシリテーター	彦根市立病院
9. 8	第2回滋賀県緩和ケアチーム研修会	一般参加	滋賀県立総合病院
10. 6	ピンクリボン彦根	ボランティア	ビバシティ
10. 13	リレーフォーライフジャパン	一般参加	滋賀医大
10. 25	東近江・湖東・湖北地域合同がん検診従 事者研修会 「彦根市立病院 がん相談支援センター の役割」	発表	米原公民館
11. 10	がん相談支援センター相談員スキルアッ プ研修会 ～科学的根拠に基づく情報支援～	がん専門相談員 参加	大津赤十字病院
11. 25、 12. 2	滋賀県がん診療連携協議会緩和ケア推進 部会主催 ELNEC-J 研修 「M10. 質の高いエンド・オブ・ライフケア の達成」	講師 ファシリテーター	彦根市立病院
1. 16	地域・職域情報交換会 「彦根市立病院 がん相談支援センター の取り組み」	講師	滋賀県湖東合同 庁舎
1. 25	滋賀県看護協会 「意思決定支援プロセス支援とアドバン スケアプランニングの重要性」	ファシリテーター	滋賀県看護協会 看護研修センター
2. 15	第2回がん相談員スキルアップ研修会 「就労支援の実践」	ファシリテーター	滋賀県小児保健 医療センター

3. その他

相談状況(2018.4月～2019.3月) 電話 546件 面談 350件 メール10件

相談内容(複数選択可)

症状・副作用・後遺症	399	補完代替療法	17
不安・精神的苦痛	345	社会生活(仕事・就労・学業)	42
ホスピス・緩和ケア	233	がんの検査	16
がんの治療	165	臨床試験・先進医療	12
受診方法・入院	197	患者会・家族会(ピア情報)	11
生きがい・価値観	137	友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	12
医療者との関係・コミュニケーション	112	医療機関の紹介	12
在宅医療	81	治療実績	6
告知	68	セカンドオピニオン(一般)	11
介護・看護・養育	54	その他(アピアランスケアなど)	7
医療費・生活費・社会保障制度	51	セカンドオピニオン(他へ紹介)	4
患者-家族間の関係・コミュニケーション	50	セカンドオピニオン(受入)	1
転院	28	がん予防・検診	1
食事・服薬・入浴・運動・外出など	24	不明	0

4. 所感

H30年度より、緩和ケアチーム専従、がん相談支援センターのがん専門相談員になり、院内外を問わず、がん患者や家族、スタッフの相談にのり、丁寧な対応を心掛け、がん患者が満足した療養生活を送れることを目標として活動している。がん患者サロンりらくにも参加し、がん患者、家族が安心して話し合えるように、和やかな場の提供を心がけている。また、地域との情報交換を行い、交流会でがん相談支援センターの取り組みや、検診の必要性について話し、彦根市立病院のがん相談支援センターを市民の皆さんへ広めるように活動してきた。今年度より滋賀産業保健センターと協働し「治療と仕事との両立に関する個別相談会」も開催し、がん患者が安心して仕事も両立できるように支援をしている。

大学へも出向き、緩和ケア普及のため未来の看護師に向けての講義を行い、ELNEC-J指導者として、滋賀県看護師に対し、研修を通して、後進の育成にも力を入れた。院内の臨床倫理委員にもなり、ACPの導入に向けて、準備を薦めており、H31年度は当院においてもACPが広まるように取り組んでいきたい。

がん患者の不安を軽減するためのがん患者指導管理料を多くのがん患者に算定することはまだ出来ていないため、H31年度はひとりでも多くの患者や家族の不安が軽減できるように、取り組んでいきたい。

1. 院内教育活動

がん看護研修

内容	会場	役割	日付
エンド・オブ・ライフにおける意思決定支援 ～ACPって何？～	当院講堂	講師	7.3
がん患者の就労支援	当院会議室	運営スタッフ	9.7
がん化学療法の最前線 ～免疫療法を正しく理解して臨床につなげよう～	当院会議室	運営スタッフ	11.9

2. 院外研修、学会、講義、会議

研修・学会・講義	会場	参加形態	日付
緩和ケア特別講義	滋賀県立大学	講師	4.23
がん相談員研修	滋賀県立総合病院	講師	5.16
リスタートナースサポート研修	滋賀県看護協会	講師	6.1
日本緩和医療学会学術大会	神戸国際会議場	一般参加	6.16、 17
滋賀県がん診療連携協議会 緩和ケア推進部会	滋賀県立総合病院	部会員	6.21
国立がんセンターがん専門相談員 指導者フォローアップ研修	国立がんセンター	一般参加	6.29
日本ホスピス緩和ケア連絡協議会 年次大会	東京ビッグサイト	一般参加	7.14、 15
滋賀県緩和ケア研修会	当院講堂	講師・受講	9.2
滋賀県緩和ケアチーム研修	滋賀県立総合病院	一般参加	9.7
リスタートナースサポート研修	くすのきセンター	講師	9.14
リレーフォーライフジャパン	滋賀医科大学	一般参加	10.13
ELNEC-J コアカリキュラム	滋賀県立総合病院	ファシリ テーター	11.3
滋賀県がん診療連携協議会緩和ケア 病棟意見交換会・緩和ケア推進部会	滋賀県立総合病院	部会員	11.15
ELNEC-J コアカリキュラム	彦根市立病院	プログラム実 施責任者	11.25 12.2
彦根緩和ケアセミナー	彦根キャッスル リゾート&スパ	座長	1.24
死の臨床研究会近畿支部年次大会	大阪医療センター	一般参加	2.3
リスタートナースサポート研修	滋賀県看護協会	講師	2.4

3. その他

内容	相談者	件数
患者・家族に関する指導、相談（病棟内）	看護師	186 件
〃（病棟外）	看護師	38 件
症状コントロールに関する相談（院内全体）	医師	26 件
緩和ケア病棟転倒に関する相談（院内全体）	医師	56 件

<所感>

4月に緩和ケア病棟へ異動となり、管理業務に携わることが増え、認定看護師として実践する機会が減少したことは否めないが、病棟というフィールドにおいては患者・家族の看護問題をタイムリーに捉え、かかわることができるという大きなメリットがある。しかし院内の人事異動に伴い、緩和ケア病棟経験2年未満のスタッフの割合が、年度初めに4割だったのが、年度末には7割に増え、知識と経験の不足が看護の質に影響を及ぼすことが危惧された。そこでカンファレンスでの助言や、ケアの根拠を明確にした指導を心がけ、臨床が専門的緩和ケアの学びの場となるよう努めた。院外研修等へ参加するスタッフが増え、興味・関心・学習への動機づけはできたと考える。

個々のスタッフの緩和ケア実践能力が向上できる教育と、多職種を含めたグループダイナミクスが効果的に発揮できるチーム作りをおこない、選ばれる緩和ケア病棟を目指したい。

救急看護認定看護師活動報告 藤川 真人

I. 学術活動

学会発表

	演題	学会名	会場	日付
共同 演者	院内看護師に対する救急カー ト薬剤知識調査の取り組み	第21回日本臨床救急 医学会学術集会	名古屋国際会議場 愛知県	6.1
共同 演者	一般病棟へ緊急入室した患者 のNEWS評価の有用性の検討	第48回日本集中治療 医学会学術集会	国立国際会館 グランドプリンス ホテル京都 京都府	3.1~3

執筆・投稿

Emergency Care 31 巻12号 P45-P49 2018年12月1日発行 MCメディカ出版
 特集 みんなで説いて力試し!あなたもチャレンジ 救急看護力チェック退会
 3. 救急ナースが知っておきたい検査の知識
 改訂第4版 外傷初期看護ガイドライン JNTEC™ へるす出版
 IV 外傷初期診療時のアセスメント 13. 高齢者外傷のアセスメント P190-P192

その他の学術活動

内容	場所	日付
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 第189回 JNTEC プロバイダーコース インストラクター	大阪赤十字看護専門学校	5.5、6
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 第202回 JNTEC プロバイダーコース インストラクター	浜松医科大学	1.12、13
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 第205回 JNTEC プロバイダーコース インストラクター	滋賀ニプロ iMEP	2.16、17
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 JNTEC インストラクターブラッシュアップセミナー インストラクター	日本赤十字看護大学 広尾キャンパス	7.14
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 JNTEC インストラクターブラッシュアップセミナー インストラクター	ホテルアバローム紀の国	10.18
公益社団法人 大阪府看護協会 平成30年度 救急看護認定看護師教育課程 医療安全学:医療安全管理 ファシリテーター	公益社団法人 大阪府看護協会 桃谷センター	7.25
公益社団法人 滋賀県看護協会 リーダー別研修 ニーズを捉える力I・II	公益社団法人 滋賀県看護協会	11.30

「明日からもれなくチェックしよう！ すぐに生かせるフィジカルアセスメント～」		
第20回日本救急看護学会学術集会 参加	和歌山県民文化会館 ホテルアバローム紀の国	10.19、 20
大阪救急看護認定看護師会総会・ 第11回ブラッシュアップセミナー セミナー開催、参加	大阪府看護協会 ナーシングアート大阪	1.27
城西学区PTA対象救急蘇生法 講師	城西小学校	7.7
西中ブロック救命講習 講師	城西小学校	6.16
第1回全国救護活動研究会学術集会	国立オリンピック記念 青少年総合センター 東京都	11.4
全国救護活動研究会 第47回CSRMPベーシックコース スタッフ参加	兵庫県広域防災 センター	9.1、2
全国救護活動研究会 第14回CSRMPスタッフコース スタッフ・主担当参加	兵庫県広域防災 センター	1.19、20

II. 院内諸活動

1. 院内講義・研修担当

日付	内容	対象者
7.6	6B病棟学習会 状態悪化を予測する	看護師
8.17	6B病棟学習会 急変時の対応について	看護師
2.8	6B病棟学習会 心電図をみてみましょう	看護師
2.21	6B病棟学習会 前頭葉の障害について	看護師
2.26	6B病棟学習会 酸素療法について	看護師

2. 院内研修

内容：平成30年度 クリニカルラダーレベルⅠ フィジカルアセスメント

日付	内容
5月	フィジカルアセスメントⅠ ファシリテーター
6月	フィジカルアセスメントⅡ ファシリテーター
9.29	フィジカルアセスメントⅢ(中枢神経系)講義担当
12.8	フィジカルアセスメントⅣ

内容：平成30年度 クリニカルラダーレベルⅡ フィジカルアセスメント

日付	内容
11.8	フィジカルアセスメント(統合) ファシリテーター
11.9	フィジカルアセスメント(統合) ファシリテーター

その他

- ・日本 DMAT
 - 6月18日発生 大阪北部地震 DMAT 派遣 院内 DMAT バックアップ
 - 8月3-4日 政府主催 広域搬送訓練(香川県・高知県)参加
 - 8月25日 彦根市防災訓練参加
- ・日本救急看護学会 外傷看護委員会 JNTEC コース ブースリーダー/ブースサブリーダー
- ・全国救護活動研究会 コアメンバー CSR委員会 委員
- ・大阪救急看護認定看護師会 会計

5. 所管

今年度は救急看護認定看護師として、一般病棟で活動を行った。一般病棟での救急看護認定看護師として何ができるのか、模索する年となった。課題を見つけては優先順位を考え、できるだけタイムリーにスタッフへフィードバック、指導することができた。その結果として部署での学習会が増えたことにつながったと考えられる。

しかし、RRS 運営部会、RRS リンクナース会、RST に関しては昨年度と比較して活動ができなかった。またサブスペシャリティーとして取り組んでいるプレホスピタル(ITLS Access Course)、CSR委員会を中心とした災害医療に関しても活動が不十分なものとなってしまった。JNTEC(Japan Nursing for Trauma Evaluation and Care)に関しては、コアインストラクターとしての活動の他にブースリーダー/サブリーダーとしてコースにおける質の管理への活動を継続することができた。

来年度に関して、認定看護師の更新を迎えるため、資格更新を前提に今年度活動できなかったことに取り組みながら、部署の活性化を図ることができるように関わりたい。

1. 院内 講義担当等

内容	対象者	日時
中心静脈ポート研修	クリニカルラダーレベルⅡ以上	5.25
がん化学療法看護の基礎知識 “知って納得！がん化学療法の投与管理”	8A病棟看護師	9.3
がん免疫療法 “がん免疫チェックポイント阻害薬のマネジメント”	外来看護師	9.26
がん化学療法最前線 免疫療法を正しく理解して臨床につなげよう “実際の患者さんはどんな感じ？”	院内看護師 湖東医療圏の看護師 メディカルスタッフ	11.9
中心静脈ポート研修	クリニカルラダーレベルⅡ以上	11.16

2. 院外 講演・学会発表・ファシリテーター等

演題・テーマ	学会名・研究会名	会場	日時
免疫チェックポイント阻害剤	第19回 びわこオンコロジー ナースカンファレンス (ファシリテーター)	ライズヴィル 都賀山荘	4.21
チームで取り組む卵巣がん化学療法	第6回 北琵琶湖 メディカルスタッフ カンファレンス (総合司会)	長浜ロイヤル ホテル	6.20
症状マネジメント「便秘」	地域における がん化学療法看護研修 (演者・ファシリテーター)	滋賀県立 総合病院	7.1
がん化学療法医療チーム指導者養成研修 (演者・ファシリテーター)		国立がん研究 センター中央病院	10.5～6
高齢者の薬物療法マネジメント	第20回 びわこオンコロジー ナースカンファレンス (ファシリテーター)	ライズヴィル 都賀山荘	12.1

3. 院外 学会・研修参加

学会名・研究会名・研修名	会場	日時
第16回臨床腫瘍学会	神戸国際会議場	7.19～21

4. その他

- ・滋賀県がん診療連携拠点協議会 研修推進部会所属：年3回の部会開催

5. 所感

がん化学療法看護認定看護師として、現在は外来の通院治療センターの専従として勤務している。当院は湖東医療圏のがん診療連携拠点病院であり、地域の中で果たす『がん診療』の役割は大きく、地域医療の発展に向けて尽力を尽くすべき立場となっている。

近年、がん薬物療法の開発は進み治療にはめざましい進歩がある。殺細胞性抗がん薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬など治療内容は多岐に渡っている。新規薬剤の作用機序・投与方法・有害事象及び症状に対する支持療法など、日々新しい情報を得ながら最先端の治療が提供できるように取り組んでいる。がん薬物療法は医師・看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー等、多職種での連携は必須である。患者主体の治療が行えるようチームとして取り組み、研鑽している毎日である。

一人一人の患者の意思を大切に、真心のこもったがん薬物療法看護が提供できるよう、今後も誠心誠意、取り組んでいく所存である。

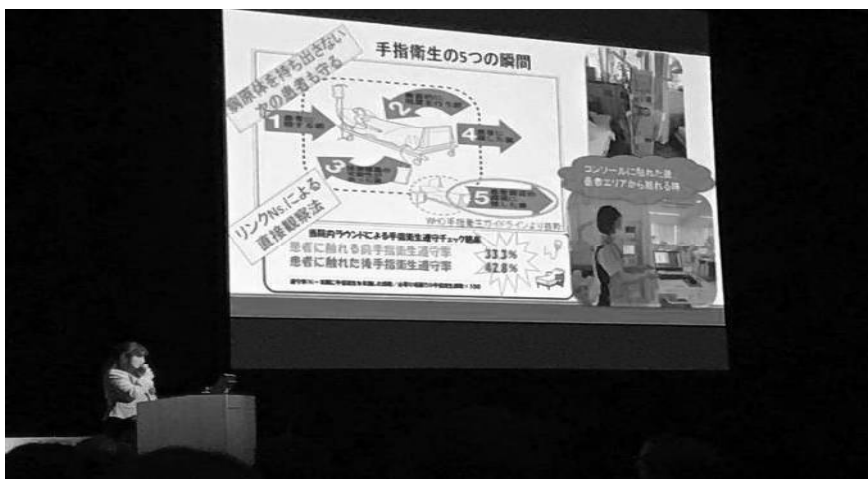
【学術活動】

1. 学会・演題発表

日付	学会名	発表内容	場所	発表者	共同演者
2. 22	第34回日本環境感染学会総会・ 学術集会 「皆でAMR時代に臨む」	「透析関連感染サーベイランス 11年目の報告」	神戸国際展示場 2号館2F 2A会議室(兵庫)	坪根 淑恵	森兼啓太 多湖ゆかり
2. 22	第34回日本環境感染学会総会・ 学術集会 「皆でAMR時代に臨む」	「抗菌薬適正使用支援加算算定前 後における感染制御担当薬剤師 の活動内容に関する調査」	神戸国際展示場 2号館2F 2A会議室(兵庫)	國領俊之	米谷領太 (協力者)
2. 23	第34回日本環境感染学会総会・ 学術集会 「皆でAMR時代に臨む」	「消化器外科手術におけるSSIサー ベイランスによる手術部位感染 予防策の検討」	神戸国際展示場 2号館2F 2A会議室(兵庫)	多湖 ゆかり	

2. 講演

日付	講演会名	講演内容	場所	講演者
6. 23	日本感染管理ベストプラクティス “Saizen” 研究会 基礎講座	「感染管理の基本」	メルパルク京都 (京都)	多湖
6. 30	2018年第63回日本透析医学会学術集会・ 総会(JSDT)コヴィディエンジャパン(株) 展示ブースセミナー	「知っておきたい透析室の感染 対策ポイント」	神戸国際展示場 3号館(兵庫)	多湖
9. 20	滋賀県病院協会主催 感染対策出前講座	「ノロウイルス感染症の予防と 対策」	特別養護老人ホーム 清水苑 (滋賀)	堤
12. 19	平成30年度「介護サービス事業者等感染 対策推進事業」出前講座	「介護ケアと感染対策」	特別養護老人ホーム いやしのさと(滋賀)	谷
2. 22	第34回日本環境感染学会総会・学術集会 「皆でAMR時代に臨む」	「透析室における手指衛生」	神戸国際展示場2号館1F コンベンションホール(兵庫)	多湖



3. 執筆活動

- ・多湖ゆかり： 日本環境感染学会誌 査読 協力者：月野光博 樋口武史
- ・多湖ゆかり：「感染制御」Vol. 10 別冊2「医療従事者Health-care Providerのための感染予防：
針刺し切創・皮膚粘膜暴露予防」6) 透析部門 (職業感染制御研究会編) 2018. 4月

4. 学会活動

日本環境感染学会 評議員 多湖ゆかり
APIC(米国感染管理疫学専門家協会)会員 多湖ゆかり

【院外諸活動】

1. 院外研修および学会参加

日付	学会・研修名	内容	場所	参加者
5. 12	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 第13回セミナー	感染管理ベストプラクティス実践発表	大阪国際会議場 10階会議室(大阪)	多湖
5. 25、 26	第7回日本感染管理ネットワーク学会学術集会	新たな STAGE へのチャレンジ ～見せましょう、ICNの底力を～	仙台国際センター (宮城)	多湖
6. 7	近江八幡地区 感染対策セミナー	「感染症診療の原則 -抗菌薬のやめ時-」 感染症コンサルタント/米国感染症専門医 青木 眞先生	近江八幡市立 総合医療センター よしぶえホール (滋賀)	馬場 福田 山田
6. 12～ 15	APIC 2018 Annual Conference (APIC: Association for Professionals in Infection Control and Epidemiology (米国感染制御疫学専門家 協会)45回総会	APIC 2018 Annual Conference45回総会 病院見学 3M本社イノベーションセンター見学会 日本語サマリーセッション	Minneapolis (米国)	多湖
7. 5	院内研修	明日から使いたくなる咳の診断と治療 ～呼吸器感染症からアレルギーまで～ 彦根市立病院 呼吸器内科 岡本 菜摘先生	彦根市立病院 3階講堂 (滋賀)	月野 吉川 神田 米谷 多湖
7. 10	Web シンポジウム PHARMACIST EXPERT SEMINAR	「今、期待される AS (抗菌薬適正使用支援) について」 「AST (抗菌薬適正使用支援チーム) の運用と活動の実際」	くすのきセンター 3階 会議室2 (滋賀)	馬場 福田 多湖 谷
7. 14	第22回関西感染症 フォーラム	・地域包括ケアにおける感染症と感染対策 ・環境清拭用クロスの選択ポイント：性能評価も含めて ・AMR 対策アクションプランが求める感染対策・診療 ・バッドサイクルからグッドサイクルへ ～TeamSTEPPS を活用した感染管理～	NHK 大阪ホール (大阪)	多湖 谷
9. 13	ナースの星 地域連携 × 感染対策 WEB セミナー 退院後も踏まえた感染対策	価値ある地域連携を目指した地道な感染制御活動 座長：森兼 啓太先生 演者：四宮 聡先生	WEB 視聴	多湖
9. 20	平成30年度介護サービス 事業者等感染対策推進事業 講座 (出前講座)	ノロウイルス感染症の予防と対策	特別養護老人 ホーム きいと	堤
9. 20	CDI WEB シンポジウム ～多職種で臨む C. difficile 感染の治療、 感染管理～	・CDI 感染対策における当院の現状 ・薬剤師としての CDI 治療の関わりについて ・CDI における課題と新たな治療戦略	くすのきセンター 3階 会議室2	月野 岡本 馬場 福田 多湖 谷 川崎 森村 (院外) 中央HP

9. 29	第9回 神戸・滋賀修了生 感染管理認定看護師会 (KSCN)総会 第16回研修会	・「標準予防策の再構築～CREアウトブレイクを経験して～」 ・「顔面の防護具適正使用～笑顔で向き合うために～」 ・「歯科領域感染制御への介入～歯科医師や病院幹部職員との感染制御への意識の差を感じて～」	CIVI 研修センター 新大阪東 E5ホール (大阪)	多湖
10. 20	第16回滋賀耐性菌研究会	・「平成30年滋賀県における分離菌と薬剤感受性」 ・「平成29年滋賀県 抗菌薬使用量調査の結果報告」 ・特別講演「京大病院における肺炎診療向上への挑戦」 京都大学大学院医学研究科 呼吸器内科 伊藤 功朗 先生	ホテルポストンプラ ザ草津「リンカーン ボールルーム」 (滋賀)	谷
11. 17	第12回ハクゾウ感染対策 セミナー	・講演Ⅰ「自然災害における感染対策—自分たちは何を 備えておくべきか」中村 忠之 先生 ・講演Ⅱ「病院環境は衛生的か?～正しい環境整備の ススメ!!～」木下 桂 先生 ・特別講演「耐性菌に立ち向かう：伝搬防止と抗菌薬適正 使用」森兼 啓太 先生	京都リサーチパーク 西地区4号館 2階ルーム1 (京都)	多湖
11. 28、 29	第31回日本外科感染症学会 総会学術集会	外科感染症学の理論と実践	ナレッジキャピタル コングレコンベンシ ョンセンター (大阪)	多湖
11. 30	Infection Forum in 滋賀	・オキサゾリジノン系合成抗菌剤「シベクトロ」MSD株 ・ICTが知っておきたい耐性菌対策—MRSAを中心に— 座長 一山 智 先生 演者 竹末 芳生 先生	ホテルピアザびわ湖 6階 クリスタル ルーム(滋賀)	多湖
12. 4	平成30年度院内感染防止 対策研修会	・「安全で衛生的な病院環境を保つために」 尾家 重治 先生 ・「抗菌薬耐性菌と感染制御」 一山 智 先生	コラボしが21 3階 大会議室 (滋賀)	多湖 谷 樋口 福田
12. 11	ナースの星 感染対策 WEB セミナー ～ICT ナースが 知っておきたい～感染対策 のあり方について考える	ICNからみた感染予防に役立つ製品選びのツボ ～感染対策の進化と共に歩む感染対策製品～ 一木 薫 先生	WEB 視聴	多湖
12. 15	びわこ ICN 研修会	・「みんなで取り組む感染対策と医療安全」 一山 智 先生 ・「看護部長が期待する ICN とは？」 山中 寛恵 先生 ・お悩み相談！フルーツバスケット！！	(株)石黒メディカル システム本社 (京都)	多湖
12. 26	感染症インターネット 講演会	・「病態から考える MRSA 感染症治療薬選択のポイント」 掛屋 弘 先生 ・「薬剤耐性菌感染症に対する新たな展開」 三嶋 廣繁 先生	くすのきセンター 3階研修室 (滋賀)	多湖 谷 堤
1. 11、 12	平成30年度院内感染対策 講習会	院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担う ことが期待される病院等の医療従事者を対象とした講習会	神戸国際会議場 メインホール (兵庫)	多湖 福田 神山
1. 20	平成30年度 第5回 滋賀県 CNIC 感染管理情報交換会	情報交換	滋賀医科大学医学部 附属病院 第3会議室 (滋賀)	多湖
2. 21～ 23	第34回日本環境感染学会 総会・学術集会	「皆で AMR 時代に臨む」 会長 竹末 芳生 先生	神戸国際展示場・ 神戸国際会議場・ 神戸ポートピア ホテル(兵庫)	多湖、 谷、堤
3. 21	第17回神戸・滋賀修了生感 染管理認定看護師会研修会	伝えたいことを正しく伝えるためのプレゼンテーション 技術～そのプレゼン力、ハンパないって!～ 東京工芸大学芸術学部教授 大島 武 先生	CIVI 研修センター 新大阪東(大阪)	多湖 谷


2. 研究会会議・研修支援・アドバイザー等

日付	研究会・研修会名	場所	参加者	参加形態
5.12	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 第13回セミナー	大阪国際会議室 10階会議室（大阪）	多湖	ポスター発表 支援 アドバイザー
6.23	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 京都ワーキンググループ 第1回ワーキンググループ 現状手順のリスク分析・解決策の検討	メルパルク京都 （京都）	多湖	アドバイザー
9.15	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 京都ワーキンググループ 第2回ワーキンググループ 見直した手順の検討・チェックリストの作成	メルパルク京都 （京都）	多湖	アドバイザー
2.10	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 京都ワーキンググループ 第3回ワーキンググループ チェックリストによる調査結果の報告と課題の検討	メルパルク京都 （京都）	多湖	アドバイザー

【院内諸活動】

1. 研修講師

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
4.2	平成30年度新規採用職員研修	感染対策室の紹介	平成30年度新規採用職員	多湖、
4.4	クリニカルラダーⅠ 新人看護師技術研修 感染管理	院内感染防止技術 について	クリニカルラダーレベルⅠ	多湖、谷、堤
4.9	クリニカルラダーⅠ 新人看護師技術研修 感染管理	針の取り扱い	クリニカルラダーレベルⅠ	堤
4.18	新入局員オリエンテーション	感染対策室の紹介	平成30年度新入局員	多湖
4.20	クリニカルラダーⅡ	針の取り扱い	クリニカルラダーレベルⅡ	堤
5.9	院内感染対策リンクナース会 学習会	標準予防策・感染経路別 予防策	リンクナース	多湖、谷、堤
6.1	N95マスクのフィットテストの レクチャー	3回	透析スタッフとME(3名)	多湖
6.5	N95マスクのフィットテストの レクチャー	5回	透析スタッフとME(12名)	多湖
6.6	N95マスクのフィットテストの レクチャー	3回	透析スタッフとME(7名)	多湖
6.7	N95マスクのフィットテストの レクチャー	1回	透析スタッフとME(1名)	多湖
6.14	平成30年度第1回院内感染対策 セミナー 17:30～		全職員	神田Dr. 米谷Ph.
6.19	平成30年度第1回院内感染対策 セミナー 17:30～		全職員	福田Mt.
6.20	平成30年度第1回院内感染対策 セミナー 17:30～		全職員	山田Dr.
7.2	クリニカルラダーⅡ	感染経路別予防策	クリニカルラダーレベルⅡ	多湖、谷、堤
7.3～	聖泉大学 地域統合実習(7/3～7/20)		聖泉大学 実習生1名	多湖
7.10	H30年度中央中学校チャレンジウィーク 職場体験学習	感染対策実践	彦根市立中央中学校の学生5人	多湖
7.11	滋賀県立大学 統合実習(7/11)		滋賀県立大学 実習生5人	多湖

7.11	院内感染対策リンクナース会	職業感染対策	リンクナース	堤
7.30	翔西館高等学校 フィールドワークインタビュー		翔西館高等学校 3年生 3人	多湖
9.12	院内感染対策リンクナース会	インフルエンザについて	リンクナース	谷
9.18	平成30年度 感染対策いろは 13:30～ 開催	院内感染対策の基礎の復習	これまでに研修を受講していない看護助手・MT・クラーク研修	多湖、谷、堤
10.10	呼吸ケアサポートチーム企画学習会 Vo. 1.2	今さらきけない人工呼吸器関連肺炎 VAP	看護師	堤
10.10	院内感染対策リンクナース会	・SAVE(感染対策ゲーム) ・風しんの対応について	リンクナース	多湖、谷、堤
3.8	消防職員専科教育科に係る病院実習 	感染防止について	消防職員8名	多湖、谷、堤
3.13	院内感染対策リンクナース会	活動成果報告会	リンクナース	多湖、谷、堤

2. 研修 (院外講師)

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
6.11	平成30年第1回院内感染対策セミナー特別講演(山中先生) 17:30～	「行列のできる感染管理相談室～ひとりひとりがみんなのために～」	全職員	SRL 学術顧問 前・大手前病院 医療技術部長、感染管理センター長 山中喜代治先生
6.12	平成30年度第1回院内感染対策セミナー特別講演 DVD 上映会 15:00～	「行列のできる感染管理相談室～ひとりひとりがみんなのために～」	全職員	
6.19	平成30年度第1回院内感染対策セミナー特別講演 DVD 上映会 15:00～	「行列のできる感染管理相談室～ひとりひとりがみんなのために～」	全職員	
11.2	平成30年度第2回院内感染対策セミナー(長尾先生) 院外講師招聘講演会 17:30 開催	「みんなで臨む! 薬剤耐性(AMR)対策と感染予防」	全職員	(特別講演) 長尾 美紀先生 京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長
11.6	平成30年度第2回院内感染対策セミナー特別講演 DVD 上映会 15:00～/17:30～(全2回)	「みんなで臨む! 薬剤耐性(AMR)対策と感染予防」	全職員	

(3) 感染管理に関するコンサルテーション集計

■多湖ゆかり

	院内			院外	合計
	看護師	医師	その他		
4月	9	2	1	3	15
5月	8	4	3	1	16
6月	4	2	3	1	10
7月	6	3	1	0	10
8月	4	3	5	1	13
9月	6	1	1	1	9
10月	7	1	0	0	8
11月	7	0	1	1	9
12月	5	4	1	2	12
1月	10	0	1	2	13
2月	7	0	4	0	11
3月	3	1	2	0	6

■谷久弥

	院内			院外	合計
	看護師	医師	その他		
4月	1	0	0	0	1
5月	2	0	1	0	3
6月	2	0	0	0	2
7月	0	0	0	0	0
8月	1	0	0	0	1
9月	1	0	0	0	1
10月	1	0	0	1	2
11月	0	0	1	0	1
12月	0	0	0	0	0
1月	1	0	0	0	1
2月	1	0	0	0	1
3月	3	1	2	1	7

■堤沙知子

	院内			院外	合計
	看護師	医師	その他		
4月	0	0	0	0	0
5月	3	0	0	0	3
6月	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0
8月	1	0	0	0	1
9月	1	0	0	1	2
10月	3	0	0	0	3
11月	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0
1月	2	0	0	0	2
2月	0	0	0	0	0
3月	0	0	2	0	2

【所感】

平成30年度は抗菌薬適正使用支援チームを新たに設置し、これまでも実施してきた加算取得のための合同カンファレンスや相互評価はもとより、院内の感染管理教育や感染対策・職業感染対策など多岐にわたる業務を遂行してきた。平成29年に引き続きインフルエンザの流行はあったが、対策を強化することにより患者死亡やアウトブレイクは発生せず、病棟閉鎖をする事態にも至らなかった。当院において、これまでも新聞報道になるような大きなアウトブレイクが起きていないのは、たまたま運が良かったわけではなく、ICTメンバーそれぞれの地道な尽力と、全職員に周知するための様々な教育や活動、またそれを実践する現場職員の努力によって未然に防ぐことができ得ていると考える。今後、さらに組織として感染対策を向上させるためには、個人の献身的な努力だけではなくマンパワーの充実が必要であると考えている。

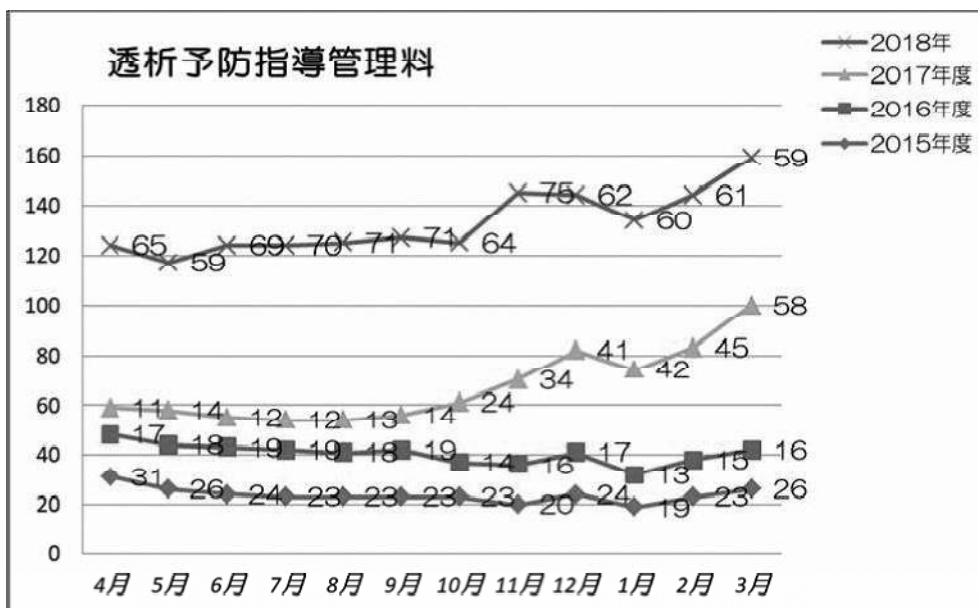
感染管理認定看護師においては、院内の感染管理だけではなく地域及び日本全体の管理についても、果たすべき役割として求められているものも大きい。当院は3人の感染管理認定看護師がそろっている病院として、県内の施設からも教育やコンサルテーションの面でも頼りにされている。今後も引き続き地域の中核病院の感染管理認定看護師として地域に貢献することはもとより、日本全体の感染管理の向上についても責務を果たしたいと考えている。

2018年度 糖尿病看護認定看護師活動報告

1. 糖尿病看護ケア外来における各指導件数総数について

年/内容	糖尿病症合併管理料	糖尿病透析予防指導管理料	皮下連続式グルコース測定
2009年	86		
2010年	127		
2011年	172		
2012年	202	21	
2013年	383	189	
2014年	524	206	
2015年	592	285	
2016年	521	201	
2017年	483	317	58
2018年	403	786	67

2018年度は糖尿病看護ケア外来のスタッフ育成のため、外来看護師の教育・支援を行った。指導件数に関わらず、マニュアル作成、伝達講習、実技指導などを勧め、専門性の高いケアのみ専任者が実施、それ以外のケアに関して、外来看護師でも対応できるようにした。「糖尿病透析予防指導」に関しては、管理栄養士の協力のもと、件数を大幅に増加させることができた。糖尿病看護ケア外来専任看護師のみならず、外来看護師との協働の結果と考える。



「糖尿病透析予防指導管理料」の算定件数増加のため、透析予防チームのカンファレンスの充実、医師への呼びかけや掲示板の活用、外来スタッフの取り組みへの理解と協力があり、取り組み始めた10月以降の算定件数増加につながった。

2. 糖尿病看護の教育・人材育成について

年\研修名	日本糖尿病療養指導士	糖尿病看護実践能力の高い 看護師育成研修*1	糖尿病合併症重症化予防 (フットケア)研修
2009年			
2010年		1名(6A病棟)	
2011年			
2012年	1名	1名(6A病棟)	1名
2013年		1名(血液浄化センター)	
2014年	4名(うち看護師3名)	1名(6A病棟)*2	
2015年	2名(うち看護師1名)	1名(血液浄化センター)	
2016年	2名(看護師2名)	1名(6A病棟)	
2017年	2名(看護師2名)		
2018年	2名(看護師2名)	2名(6A病棟)	1名*2

*1 糖尿病合併症重症化予防(フットケア)研修を受講した同等の資格含む

*2 糖尿病合併症重症化予防(フットケア)研修を受講できず。2018年度受講予定。

3. 学会、研究会関連

1) 世話人として参加している研究会、セミナー

①びわ湖CNDNの会

滋賀県内の糖尿病看護認定看護師の活動。情報交換、伝達講習会、勉強会を企画

②EastLake糖尿病看護研究会

湖北・湖東保健医療圏内で糖尿病療養指導士看護職1群の単位を取得できる研修会を開催し、圏域の糖尿病看護の質向上に努める。今年は保健師との勉強会を開催。

③CDE滋賀

地域での糖尿病療養指導士(LCDE)を育成するため、CDE滋賀認定講習会、フォローアップセミナーなどを開催し、CDE滋賀のレベルの維持に努める。

④近畿糖尿病教育フォーラム2018

近畿の中でも、兵庫、大阪、奈良、京都の糖尿病患者の療養指導を考える医師を中心としたコメディカル教育を行っていた会であり、2017年より滋賀も入って欲しいと声がかかり、滋賀の糖尿病看護認定看護師2名が参加。2018年は兵庫医科大学の廣田医師と世話人を務め、京都で開催した。

2) 学会参加

5月 第61回日本糖尿病学会年次学術集会 参加

1. 院外教育活動(学会・研修会参加)

日付	内容	会場
5.19	日本麻酔科学会周術期セミナー	ポートピアホテル
7.14	日本手術看護学会近畿地区学会	大津プリンスホテル
8.18	兵庫医科大学医療人育成センター認定看護師教育課程 主催手術看護認定看護師ブラッシュアップセミナー	兵庫医科大学医療人 育成センター
10.12	日本手術医学会	ホテルイースト 21
11.23	日本手術看護学会	パシフィコ横浜
2.24	日本環境感染学会	ポートピアホテル
9.9	京都滋賀ブロックセミナー 「第2回実践に活かす手術体位固定セミナー」	京都パルスプラザ
1.26	京都滋賀ブロックセミナー「体温管理」	京都第2赤十字病院

2. 院外教育活動(学会発表)

日付	内容	場所
10.12	日本手術医学会 臨床工学技士の業務内容(演者)	ホテルイースト 21
2.24	日本環境感染学会 消化器外科手術における SSI サー バランスによる手術部位感染予防策の検討(共同演者)	ポートピアホテル

3. 所感

高齢化する手術患者の総合的なリスクを決めるのは基礎疾患の有無であり、既往歴や内服歴、そして現在の治療内容について十分な評価と準備が必須となる。周術期医療の質を高めるためには、術前からの機能を強化する必要があり、薬剤師、臨床工学技士、歯科衛生士など、複数の診療スタッフが必要である。周術期医療の質の向上のためには、基礎疾患のリスク管理や多職種連携を築くことがもっとも重要である。

手術室看護師スタッフ配置において日々変化しており、手術看護の特性や知識、専門的技術を指導し、今後の成長を期待し教育に力を注ぐことが求められている。看護実践は、患者が安全で安心して手術を受けることができ、早くなおりたいという思いに沿った看護が必要である。手術室看護師として高い専門性を追求し、レベルの高い看護を育み手術看護を目指していく。



〔Ⅰ. 学術活動〕

1. 学会・研究会参加

日付	学会・研究会・研修名	会場
5. 27	看護講演「看護ひとすじに生きて～伝えたい思い～」	ニプロ iMEP (草津市)
6. 2	日本 CNS 看護学会	大田区産業プラザ Plo (東京都大田区)
6. 16～17	第 19 回日本認知症ケア学会	朱鷺メッセ(新潟市)
6. 23～24	第 23 回日本老年看護学会学術集会	久留米シティプラザ(久留米市)
7. 1	看護セミナー 「せん妄の予防・早期発見と薬物療法の基礎と応用」	大阪私学会館(大阪市)
9. 29～30	ELNEC-J 高齢者カリキュラム看護師教育プログラム	佛教大学(京都市)
2. 23	GCNS All Area Conference 2018 「磨こう！老人看護 CNS としての能力」	東京駅八重洲ホール (東京都中央区)
2. 24	日本老年看護学会研修 「実践力の向上 気づきからアセスメントへ」	順天堂大学浦安キャンパス (浦安市)

2. 院外研修講師・ファシリテータ

日付	内容・テーマ	会場
12. 13	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	滋賀県看護協会(草津市)
2. 9	大阪府立大学大学院看護学研究科 NS-co プロジェクト 第 4 回地域包括ケアセミナー 「地域包括ケアの充実に向けた退院支援・在宅支援 ～専門看護師の実践知から学ぶ～」	大阪)立大学(羽曳野市)
3. 16	がん看護研修「移行期ケア(トランジショナルケア)」	市立長浜病院(長浜市)

〔Ⅱ. 院内諸活動〕

1. 認知症ケアチーム活動

・院内デイケアの開催・実施

7 月 25 日より週 1 回(水曜日) 15 時～16 時 30 分

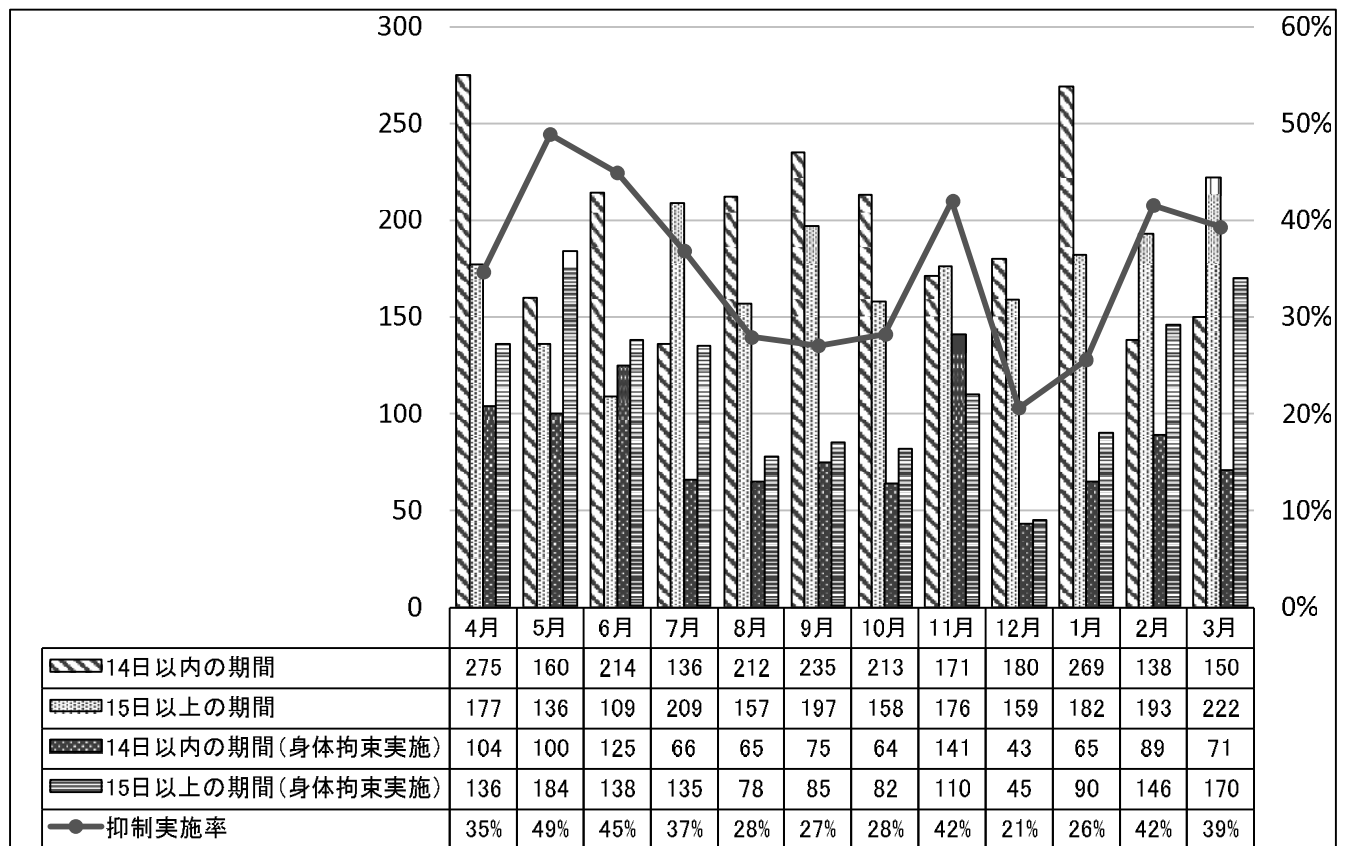
1 回につき約 10 名前後の患者が参加

参加中、つなぎ服以外の抑制ははずし、急性期病院であっても患者さんが自分らしく穏やかに過ごせることを重視し、その環境を提供

看護師、作業療法士、約 3～4 名のボランティアで実施

開催期間	参加者	内容
7.25～3.20 (24回)	男性：62名 女性：142名 合計：204名	<ul style="list-style-type: none"> ・リアリティオリエンテーション ・歌(季節の歌) ・体操(OTにより実施) ・ゲーム(宝釣りゲーム、缶倒しゲーム、入れゲーム など) ・創作(カレンダー作り、壁画作り、はがき作り、ぬりえ など) ・ボランティアさんからの出し物 ・季節の行事(クリスマス会、新年会)

・ 認知症ケア加算1 算定状況



2. 院内研修 講師担当

日付	内容・テーマ	場所
4.25	ラダーⅠ研修「認知症看護」	講堂
5.28	訪問看護ステーションほほえみ学習会 「高齢者介護による家族の変化と受容過程」	訪問看護ステーション ほほえみ
9.10	訪問看護ステーションほほえみ学習会 「せん妄を極める」	訪問看護ステーション ほほえみ
6.21	リスク部会WGせん妄勉強会「せん妄を極める」	3-1, 2会議室
6.20、7.18、 9.4、10.4	ラダーⅢ選択領域研修 「そうだったのか！実践に活かせる認知症の基礎看護」	3-2 会議室、講堂

6. 29	第1回認知症ケアチーム勉強会 「そうだったのか！認知症と栄養」	3-1 会議室
8. 20、8. 27	ラダーⅢ研修「看護倫理・認知症ケア」	3-1 会議室
9. 19	第2回認知症ケアチーム研修 「そうだったのか、認知症ケア」	講堂
10. 3	排泄ケアチーム・認知症ケアチーム合同研修 「認知症高齢者の排泄行動とそのケア」	講堂
10. 26	5A病棟学習会「認知症高齢者へのケア」	5階カンファレンスルーム
11. 29	排泄ケアチーム・認知症ケアチーム合同研修 「認知症高齢者の排泄行動とそのケア」	講堂
1. 16、1. 17、 1. 23、1. 24	看護補助者・MH・クラーク合同研修 「認知症患者への看護」	3-1, 2 会議室、講堂
1. 28	リスク部会研修「せん妄を極める」	3-1, 2 会議室
3. 7	第3回認知症ケアチーム研修 「そうだったのか、認知症ケア」	3-1, 2 会議室

3. その他

- ・彦根市立病院広報誌「かがやき通信第22号」 投稿
「院内デイケアについて」

[所感]

認知症ケアチームでの活動を中心に院内における認知症ケアの質の向上を目指し活動を行った。今年度、週1回のラウンド、チーム研修は計画に即して継続して実施することができた。また、新たに院内デイケアを開設し、新たな活動の場も広がった。しかし、チームの運用については、ようやく枠組みやシステムが浸透しつつあるという段階である。認知症という疾患や抑制に対する関心の高まりが感じられ、抑制実施率も減少傾向にはあるが、実際のケアにおいてチーム介入による評価可能な成果は得られていないと考える。検討しなければならないシステム上の課題も出てきた。これらのことは、病棟看護師との対話、ケア上の真の課題の把握、チームとしての多角的なアセスメント、病棟看護師の気付きを促す伝達や助言がタイムリーに行えなかったこと等が要因といえる。そのことで、状況に即した個別的なケアの実践や成果につなげることができなかった。さらに、入院初期から多職種の視点で病棟看護師とケア方法について検討することは、チームの特性であり使命でもある。チームメンバーそれぞれが自身の専門性を発揮し、知識や技術を集約してチーム力を高めていくことにおいても十分なリーダーシップがとれなかったように思う。

来年度は、当院の現状やニーズ、強みや弱みを見据え、課題やチームとしての役割、行動目標を明確にし、ケアの質にこだわって具現化していきたいと思う。そのためには、基本的知識の提供、アセスメントやケアの標準化から取り組む必要性を感じており、リンクナースと連携をはかって、システムやマニュアルなどの見直し・整備を行っていききたいと思う。

1. 訪問看護ステーション教育活動（訪問看護ステーションスタッフ対象）

日付	内容	講師
5.18	医療・介護診療報酬改定	伊部恵美子
5.28	高齢者介護による家族の変化と受容過程	藤井裕子
6.15	訪問看護の医療安全	佐伯公亮
7.13	褥瘡に使用する薬剤について	西村紀子
7.20	口腔ケア	磯島美和
8.1	人工呼吸器・加温加湿器・カフアシスト勉強会	フィリップス・ヘルスケア
8.10	エンド・オブ・ライフにおける意思決定支援	森口朋子
9.10	せん妄をきわめる	藤井裕子
9.21	インスリン（低リスクでより良いベネフィットを）	岩崎裕美
11.16	ドレーン固定バリアについて	西村紀子
1.25	緩和ケア病棟について	森口朋子
2.1	ストーマ脱出について	西村紀子
2.8	フットケア（足をむしばむ11のリスク）	岩崎裕美
2.15	新任訪問看護師業務マニュアル等について	伊部恵美子

院内研修

日付	内容	講師
9.21	訪問看護について（7B病棟）	伊部恵美子
2.27	どんな場所でもおいしく食べるためには	磯島美和、伊部恵美子

2. 院外講演・研修

日付	内容	場所（対象者）
6.20	「在宅の看護過程」研修 ファシリテーター	滋賀県看護協会
9.29	訪問看護師実践力向上研修会	くすのきセンター、甲賀病院
10.13	～圏域毎事例検討会～	弓削メディカルクリニック
12.15	「食べたい」を支援する！をみんなで考えてみませんか？	訪問看護に関わる看護師
11.4	滋賀 COPD 管理講習会 「訪問看護での呼吸管理への取組み」	彦根市立病院 講堂
10月～11月	滋賀県実習指導者講習会 演習の講師	滋賀県看護協会

3. 院外研修・学会参加

日付	内容	場所
4.14	平成30年度の報酬改定活用セミナー	CIVI研修センター新大阪
5.20	ステーションでのハラスメントの対策	掛川市西部地域健康医療センター
7.27、28	在宅看護学会 地域でその人らしさを支える“在宅看護”	佐賀市文化会館
11.10	在宅療養支援のための臨床推論	ベルサール新宿グランド
11.11	訪問看護サミット	ベルサール新宿グランド
11.18	地域での医療的ケア児等への看護の基本講座	滋賀県看護協会
11.24	訪問看護師が被る利用者・家族からの暴力・ハラスメント防止に向けて	滋賀県看護協会
11.29	H29年度訪問看護師人材養成研修会受講者報告会及び事業所自己評価ガイドライン普及のための講師養成研修	CIVI研修センター秋葉原
12.8	地域における認知症対応実践講座	プライムセントラルタワー名古屋駅前店
1.5	これからの看護基礎教育の方向性	滋賀県看護協会
1.13	認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会	ピアザ淡海
2.2	本当は楽しい経営管理～訪問看護バージョン～	フェリエ南草津
3.24	優しさを伝える技術—フランス発のケア技法『ユマチニュード』に学ぶ	滋賀県立大学

4. 所感

2015年7月に訪問看護認定看護師資格を取得し、訪問看護ステーションに勤務していたが、2月に地域包括ケア病棟に勤務異動となった。訪問看護では、神経難病、認知症、慢性疾患、がん等疾患もさまざまなため、療養者の生活や疾患に応じた支援が必要となる。療養者の生活を尊重し、『そのひとらしさ』を大切に、療養者本人と家族を支え『やっぱり家に帰って良かった』と感じてもらえる看護を提供したいと考えていた。そのために、訪問看護ステーションの看護の質の向上を目的に学習会を計画、実施した。学習会は病院の各専門的知識を持つ認定看護師に依頼しさまざまな角度から学習を深め、連携を深めることを目的とした。その時に必要な学習を取り入れていくことで日常の看護を深めることができるように多職種と連携も行った。

2月からは病院の地域包括ケア病棟へ異動となり、急性期治療を終えた患者の退院支援に向けての看護に関わっている。今後は地域包括ケア病棟でのカンファレンス、学習会の機会を持ち、患者の意向に添った在宅支援に向けての支援がスムーズに図れるような関わりができるようにしていきたいと考える。

乳がん看護認定看護師活動報告 永山 夕水

1. 院内活動

日時	内容	対象者
6.2	病院まつり アピアランスケア	患者さん
12.3	乳房切除後 下着相談会	患者さん



乳腺外科診察室前
病院まつり
「アピアランスケア」

2. がん看護研修（湖東地域）

日時	内容	対象者
9.7	がんと仕事のQ&A	湖東医療圏医療者

3. エフエムひこね

4.9	乳がん患者さん就労支援
4.10	乳がん患者さんのアピアランスケアとは①
4.11	乳がん患者さんのアピアランスケアとは②

4. 院外研修・学会参加

日時	内容	会場
5.17～5.19	第26回日本乳癌学会学術総会	国立京都国際会館
7.26	看護師長が推進する地域包括ケアシステムを支援する看護管理実践	神戸看護協会
9.28	滋賀県立総合保健専門学校 乳がん看護講師	滋賀県立総合保健専門学校
10.12	乳がん看護認定看護師更新（1回目）	
11.4	平成30年 病院の看護師長研修	滋賀県看護協会
11.7	「アピアランスケア」講師	滋賀県看護協会
1.16	長浜赤十字病院 がんパス研修	長浜赤十字病院
1.27	第10回滋賀県がん医療フォーラム	ピアザ淡海

5. 乳がん予防啓発活動

日時	内容	対象者
10.6	ピンクリボンひこね 乳がん検診について	市民
10.7	ピンクリボン京都 乳房触診方法指導	市民
10.15	滋賀県リレーフォーライフ	
11.18	聖泉大学学園祭 乳がんクイズ	市民
3.15	ニューガン トークライブ	市民



【所感】

乳がん看護認定看護師として5年経過し、認定看護師の更新を行った。さらなる活動が求められ、院内だけでなく地域へ活動の場を広げ、市民と共に乳がん検診啓発活動を努めた。

乳がん患者さんは年々増加傾向であり、若年患者も増加している。乳がん治療だけでなく、治療と生活の両立できるよう援助に努めた。乳がん患者の好発年齢は働き盛りでもあり、就労問題を抱える事も少なくない。特に女性は非雇用のケースも多く、休業中の経済的問題も抱える。今年度は、治療就労両立支援コーディネーターと共に湖東医療圏医療者向けの研修を行い支援について考える機会を設けた。

また、治療については、サブタイプ分類など個別化治療や新規薬剤の選択肢など、選択肢が増える事は患者さんにとって喜ばしいが、患者さんだけで治療選択を考えていく事に困難を抱えるケースも多い。患者さんの価値観や生活にあった選択ができるよう、乳がん告知時から関わり、主治医、看護師、ソーシャルワーカーや薬剤師などチームで支え、その人らしい生活が送れるよう援助していく。

摂食嚥下障害看護認定看護師活動報告 磯島 美和

Ⅰ. 院内活動

[院内教育活動]

日付	内容	対象者
7.20	口腔ケア学習会	訪問看護ステーション 看護師
8.15、16	脳神経と嚥下障害とフィジカルアセスメント	5B病棟看護師
2.27	ブラッシュアップセミナー どんな場所でも美味しく食べるために	院内看護師
3.1	医療安全研修 「食事摂取時の窒息予防-観察と予防-」	院内全職種

[NST リンクナース会 学習担当]

日付	内容
6.15	SGA・栄養再評価とは？
7.20	食事時のポジショニングのポイント
9.21	嚥下のメカニズムとスプーンの選択
10.19	食事介助の知識
11.16	窒息について
12.21	NOHCS マウスウォッシュ、オーラルペーストの運用と口腔ケア
1.18	包括的にみる食支援

Ⅱ. 院外研修会、活動

[講義担当]

日付	内容	対象者	会場
8.30	彦根市健康推進員育成研修会 「食べるエクササイズ～元気に美味しく食べ続けるために～」	彦根市健康 推進員	くすのき センター
12.6	地域における看護職のネットワーク強化事業 介護老人福祉施設対象の出前研修「食支援の基本」	看護師 介護職員	特別養護老人 ホーム今浜の郷

[その他]

日付	内容	参加形態
10.21	京滋摂食嚥下を考える会滋賀支部食支援のための実技セミナー 「食事のための姿勢作りと食事介助」	ファシリテーター
11.25	H30年度 多職種向け連続研修会 多職種で取り組む“口から食べる”ための支援	ファシリテーター
6.8	誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケア POTTプログラム研修	ファシリテーター
6.9、10	日本摂食嚥下障害看護研究会	世話人
9.8、9	日本摂食嚥下リハビリテーション学会・学術大会	一般参加
3.15	摂食嚥下障害看護認定看護師フォローアップ研修	発表者

所感

摂食嚥下障害看護認定看護師として2年目を迎えた。今年度の研修内容は、地域施設と病院との連携、退院支援を念頭に置き開催した。入退院支援が行われる中で、食事形態に関する情報の共有は誤嚥や窒息を繰り返さず、患者が安全に食事をする上で必要不可欠である。今後も、看護サマリーや患者情報用紙の活用、湖東保健医療圏の管理栄養士が作成されている食事形態表の活用し、地域との連携を密に行う必要があるといえる。

今年度は脳神経外科、内科病棟に配属となり、新たに摂食機能療法加算の看護師による算定を開始した。算定開始に伴い脳血管疾患による嚥下障害や、摂食嚥下障害看護についての学習会を重ね、なぜ摂食機能療法を行うのか、患者にとって必要なのかという点を病棟スタッフに伝え共に考えた。加算方法が定着しつつある中で、看護師に「看護の質」について振り返りながら進めてもらうためには、どのように摂食嚥下障害看護を伝えるべきか、今後はリフレクシオンし摂食嚥下障害看護と向き合っていきたいと考えている。

1. 院内教育活動

- ・2018年4月3日(火)新採用者研修 特定看護師活動報告

2. 特定行為実践 実績

呼吸器関連の特定行為は、以下の3区分6行為。

- 呼吸器(気道確保に係るもの) 関連
 - 1) 経口用気管チューブまたは経鼻用胃管の位置の調整
- 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連
 - 2) 侵襲的陽圧換気の設定の変更
 - 3) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更
 - 4) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整
 - 5) 人工呼吸器からの離脱(自発覚醒トライアル・自発呼吸トライアル)
- 呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連
 - 6) 気管カニューレの交換

【2019度 特定行為実践数】

	ICU	一般病棟	在宅	計
1) 経口用気管チューブまたは経鼻用胃管の位置の調整	2	0	0	2
2) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	2	3	0	5
3) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	2	0	0	1
4) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	0	0	0	0
5) 人工呼吸器からの離脱 (自発覚醒トライアル)	0	1	0	1
6) 気管カニューレの交換	0	0	0	0
合計	5	4	0	9

*実践述べ患者数 9名

3. 所感

2018年度は、フィールドの中心をICUにして特定行為の実践を展開しました。手順書や記録方法を整備し、よりタイムリーに特定行為を実践できるよう調整を図りました。

特定看護師は、チームの一員として急性期から医療に携わり、在宅療養の支援強化を行うことも自身の役割であると考えます。来年度は、特定看護師としての期待できる成果と評価の指標、自身の課題を明確にし、実践したいと考えます。